

第 1 問 (必答問題)

問題のページへ

$$[1] (1) \tan \theta + \frac{1}{\tan \theta} = \frac{\sin \theta}{\cos \theta} + \frac{\cos \theta}{\sin \theta} = \frac{1}{\sin \theta \cos \theta} = \frac{2}{\sin 2\theta} \dots\dots$$

$$\text{また, } \tan \theta - \frac{1}{\tan \theta} = \frac{\sin \theta}{\cos \theta} - \frac{\cos \theta}{\sin \theta} = \frac{\sin^2 \theta - \cos^2 \theta}{\sin \theta \cos \theta} = \frac{-2 \cos 2\theta}{\sin 2\theta} \dots\dots$$

$\theta = 15^\circ$ として, $+$ より,

$$2 \tan 15^\circ = \frac{2}{\sin 30^\circ} + \frac{-2 \cos 30^\circ}{\sin 30^\circ} = 4 - 2\sqrt{3}$$

よって, $\tan 15^\circ = 2 - \sqrt{3}$

$$(2) \text{ より, } \tan \theta + \frac{1}{\tan \theta} = \frac{2}{\sin 2\theta} \text{ となる。}$$

$15^\circ < \theta < 60^\circ$ より, $30^\circ < 2\theta < 120^\circ$ なので, $\frac{1}{2} < \sin 2\theta < 1$

よって, $\sin 2\theta = 1$ ($\theta = 45^\circ$) のとき, $\tan \theta + \frac{1}{\tan \theta}$ は最小値 2 をとる。また,

$\sin 2\theta = \frac{1}{2}$ ($\theta = 15^\circ$) のとき, $\tan \theta + \frac{1}{\tan \theta}$ は最大値 4 をとる。

$$[2] X = \frac{1}{(\sqrt{2})^x} = 2^{-\frac{x}{2}} \dots\dots \text{とおくと, 方程式 } \frac{4}{(\sqrt{2})^x} + \frac{5}{2^x} = 1 \text{ は,}$$

$$4X + 5X^2 = 1, \quad 5X^2 + 4X - 1 = 0 \dots\dots$$

から $X > 0$ なので, の解は $X = \frac{1}{5}$

$$\text{これから, } 2^{-\frac{x}{2}} = \frac{1}{5}, \quad -\frac{x}{2} = \log_2 \frac{1}{5} = -\log_2 5, \quad x = 2 \log_2 5$$

[解 説]

小問 2 題という構成は例年通りですが, 内容はかなり易しくなっています。そのため, 本問の 2 題の解が, B5 版 1 枚の中に余裕をもって入りました。

第 2 問 (必答問題)

問題のページへ

[1] $y = x^2$ より $y' = 2x$ なので, 点 $P(a, a^2)$ における接線 l は,

$$y - a^2 = 2a(x - a), \quad y = 2ax - a^2$$

l と y 軸との交点 Q の座標は, $Q(0, -a^2)$ となる。

ここで, l と y 軸のなす角が 30° となるとき,

$$2a = \tan(90^\circ - 30^\circ), \quad a = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

このとき, $P\left(\frac{\sqrt{3}}{2}, \frac{3}{4}\right)$, $Q\left(0, -\frac{3}{4}\right)$ より,

$$PQ^2 = \left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2 + \left(\frac{3}{4} + \frac{3}{4}\right)^2 = 3, \quad PQ = \sqrt{3}$$

また, $l: y = \sqrt{3}x - \frac{3}{4}$ となるので, 求める網点部の面積を S とすると,

$$\begin{aligned} \frac{S}{2} &= \pi(\sqrt{3})^2 \times \frac{30}{360} - \int_0^{\frac{\sqrt{3}}{2}} \left\{ x^2 - \left(\sqrt{3}x - \frac{3}{4} \right) \right\} dx = \frac{\pi}{4} - \int_0^{\frac{\sqrt{3}}{2}} \left(x - \frac{\sqrt{3}}{2} \right)^2 dx \\ &= \frac{\pi}{4} - \frac{1}{3} \left[\left(x - \frac{\sqrt{3}}{2} \right)^3 \right]_0^{\frac{\sqrt{3}}{2}} = \frac{\pi}{4} - \frac{\sqrt{3}}{8} \end{aligned}$$

よって, $S = \frac{\pi}{2} - \frac{\sqrt{3}}{4}$

[2] $y = 3\sin\theta - 2\sin^3\theta$ に対して, $\sin\theta = x$ とおくと, $y = 3x - 2x^3$

$0^\circ \leq \theta \leq 210^\circ$ より, $-\frac{1}{2} \leq x \leq 1$ となり,

$$y' = 3 - 6x^2 = -3(\sqrt{2}x + 1)(\sqrt{2}x - 1)$$

右表より, $x = \frac{1}{\sqrt{2}}$ のとき最大値 $\sqrt{2}$ をとり,

$x = -\frac{1}{2}$ のとき最小値 $-\frac{5}{4}$ をとる。

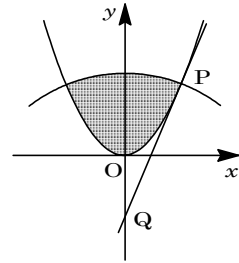
x	$-\frac{1}{2}$...	$\frac{1}{\sqrt{2}}$...	1
y'		+	0	-	
y	$-\frac{5}{4}$	\nearrow	$\sqrt{2}$	\searrow	1

なお, 最大値をとるのは $\sin\theta = \frac{1}{\sqrt{2}}$, すなわち $\theta = 45^\circ, 135^\circ$ のときであり, 最小値

をとるのは $\sin\theta = -\frac{1}{2}$, すなわち $\theta = 210^\circ$ のときである。

[解 説]

第 2 問の微積分が, 2 題構成となりました。しかし, 内容は基本的で, 計算量も少なく, 平均点のアップに大きく寄与しています。



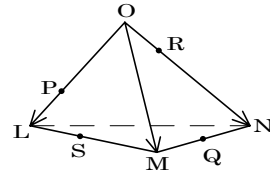
第 3 問 (選択問題)

問題のページへ

$$(1) \quad \overrightarrow{RS} = \overrightarrow{OS} - \overrightarrow{OR} = (1-b)\vec{l} + b\vec{m} - a\vec{n}$$

$$\overrightarrow{RP} = \overrightarrow{OP} - \overrightarrow{OR} = \frac{2}{3}\vec{l} - a\vec{n}$$

$$\overrightarrow{RQ} = \overrightarrow{OQ} - \overrightarrow{OR} = \frac{1}{2}\vec{m} + \left(\frac{1}{2} - a\right)\vec{n}$$



$$(2) \quad \overrightarrow{RS} = x\overrightarrow{RP} + y\overrightarrow{RQ} \text{ より,}$$

$$(1-b)\vec{l} + b\vec{m} - a\vec{n} = x\left(\frac{2}{3}\vec{l} - a\vec{n}\right) + y\left\{\frac{1}{2}\vec{m} + \left(\frac{1}{2} - a\right)\vec{n}\right\}$$

$\vec{l}, \vec{m}, \vec{n}$ は 1 次独立より,

$$1-b = \frac{2}{3}x \dots\dots, \quad b = \frac{1}{2}y \dots\dots, \quad -a = -ax + \left(\frac{1}{2} - a\right)y \dots\dots$$

$$\text{より, } x = \frac{3}{2}(1-b), \quad y = 2b$$

$$\text{に代入して, } -a = -a \cdot \frac{3}{2}(1-b) + \left(\frac{1}{2} - a\right) \cdot 2b, \quad ab + a - 2b = 0 \dots\dots$$

さらに, $\overrightarrow{RP} \perp \overrightarrow{RQ}$ のとき, $\overrightarrow{RP} \cdot \overrightarrow{RQ} = 0$ より,

$$\left(\frac{2}{3}\vec{l} - a\vec{n}\right) \cdot \left\{\frac{1}{2}\vec{m} + \left(\frac{1}{2} - a\right)\vec{n}\right\} = 0$$

ここで, $|\vec{l}| = |\vec{m}| = |\vec{n}| = 1, \quad \vec{l} \cdot \vec{m} = \vec{m} \cdot \vec{n} = \vec{n} \cdot \vec{l} = 0$ より, $-a\left(\frac{1}{2} - a\right) = 0$

$$0 < a < 1 \text{ から } a = \frac{1}{2} \text{ となり, } \text{より } \frac{1}{2}b + \frac{1}{2} - 2b = 0, \quad b = \frac{1}{3}$$

このとき, $\overrightarrow{PQ} = -\frac{2}{3}\vec{l} + \frac{1}{2}\vec{m} + \frac{1}{2}\vec{n}, \quad \overrightarrow{RS} = \frac{2}{3}\vec{l} + \frac{1}{3}\vec{m} - \frac{1}{2}\vec{n}$ なので,

$$\overrightarrow{PQ} \cdot \overrightarrow{RS} = -\frac{4}{9} + \frac{1}{6} - \frac{1}{4} = -\frac{19}{36}$$

[解 説]

空間ベクトルと図形に関する基本題です。与えられた 3 つのベクトルが、互いに直交する単位ベクトルなので、計算は簡単です。ただ、式の第 1 項をマークするとき、ちょっとためりました。

第 4 問 (選択問題)

問題のページへ

(1) $z^3 = 2 + 2i \dots\dots$ に対して, $2 + 2i = 2\sqrt{2}(\cos 45^\circ + i \sin 45^\circ)$

また, $z = r(\cos \theta + i \sin \theta)$ とおくと, $z^3 = r^3(\cos 3\theta + i \sin 3\theta)$ より,

$$r^3 = 2\sqrt{2}, r = \sqrt{2} (r > 0)$$

さらに, $0^\circ < \theta < 360^\circ$ より, $0^\circ < 3\theta < 360^\circ \times 3$ なので,

$$3\theta = 45^\circ, 360^\circ + 45^\circ, 360^\circ \times 2 + 45^\circ$$

$$\theta = 15^\circ, 135^\circ, 255^\circ$$

よって, 第 2 象限にある の解は,

$$z = \sqrt{2}(\cos 135^\circ + i \sin 135^\circ) = -1 + i$$

(2) $z^6 - 4z^3 + 8 = 0 \dots\dots$ を変形して, $(z^3 - 2)^2 - 4 + 8 = 0$, $(z^3 - 2)^2 = -4$

$$z^3 - 2 = \pm 2i, z^3 = 2 \pm 2i$$

ここで, $z^3 = 2 - 2i$ の解は, $\bar{z}^3 = \overline{2 - 2i} = 2 + 2i$ より, の
 解の共役複素数となるので, 複素数平面上に図示すると, 右
 図のようになる。

よって, 第 2 象限にある の解は, $z = -1 + i$ 以外に,

$$z = \sqrt{2}(\cos 105^\circ + i \sin 105^\circ)$$

さて, $\cos 105^\circ = \cos(60^\circ + 45^\circ) = \cos 60^\circ \cos 45^\circ - \sin 60^\circ \sin 45^\circ = \frac{\sqrt{2} - \sqrt{6}}{4}$

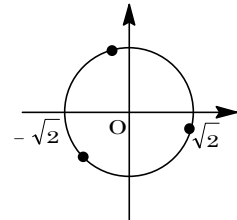
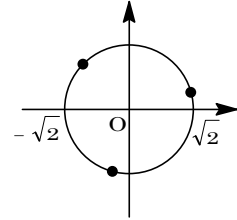
$$\sin 105^\circ = \sin(60^\circ + 45^\circ) = \sin 60^\circ \cos 45^\circ + \cos 60^\circ \sin 45^\circ = \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{4}$$

よって, $z = \sqrt{2} \left(\frac{\sqrt{2} - \sqrt{6}}{4} + \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{4} i \right) = \frac{1 - \sqrt{3}}{2} + \frac{1 + \sqrt{3}}{2} i$

また, の他の解は, 上の 2 つの図から, 第 1 象限に 1 個, 第 3 象限に 2 個, 第 4 象限に 1 個存在する。

[解 説]

本年度の 6 問中, いちばんおもしろい問題です。(1)が(2)の誘導となっており, 複素数平面上に方程式 の解がすぐに表示できます。



第 5 問 (選択問題)

問題のページへ

(1) $X = 2$ のとき、さいころを 2 回振るので、 Y の取り得る値は、 $Y = 0, 1, 2$ より 3 通りとなる。

(2) $X = 2$ となるのは、硬貨を 3 回投げて表が 2 回出る場合なので、その確率は ${}_3C_2 \left(\frac{1}{2}\right)^2 \frac{1}{2} = \frac{3}{8}$ となる。また、 $X = 2$ という条件のもとで、 $Y = 1$ となる条件つき確率は、 ${}_2C_1 \frac{2}{6} \cdot \frac{4}{6} = \frac{4}{9}$ である。

したがって、 $X = 2, Y = 1$ となる確率は、 $\frac{3}{8} \times \frac{4}{9} = \frac{1}{6}$ である。

同様にして、 $X = 1, Y = 1$ となる確率は $\frac{1}{8}$ 、 $X = 3, Y = 1$ となる確率は $\frac{1}{18}$ より、 $Y = 1$ となる確率は、 $\frac{1}{8} + \frac{1}{6} + \frac{1}{18} = \frac{25}{72}$ となる。

(3) Y の取り得る値は、 $Y = 0, 1, 2, 3$ なので、(2)より $Y = 1$ となる確率が $\frac{25}{72}$ 、また $Y = 2$ となる確率は $\frac{5}{72}$ 、 $Y = 3$ となる確率は $\frac{1}{216}$ より、 $Y = 0$ となる確率は、

$$1 - \left(\frac{25}{72} + \frac{5}{72} + \frac{1}{216} \right) = \frac{125}{216}$$

(4) Y の平均は、(2), (3)より、

$$0 \times \frac{125}{216} + 1 \times \frac{25}{72} + 2 \times \frac{5}{72} + 3 \times \frac{1}{216} = \frac{1}{2}$$

(5) $X = 2, Y = 0$ となる確率は $\frac{3}{8} \times \left(\frac{4}{6}\right)^2 = \frac{1}{6}$ なので、 $Y = 0$ という条件のもとで、

$X = 2$ となる条件つき確率は、 $\frac{\frac{1}{6}}{\frac{125}{216}} = \frac{36}{125}$ である。

[解 説]

普通は求めるべき確率の値が、問題文中にいろいろ記されています。それを用いて次のステップに進んでいくという、何か後味のよくない問題です。

第 6 問 (選択問題)

問題のページへ

- (1)
- $A = 1, B = 1, C = 1, N = 6$

のとき、ループの回転を J の値の変化で調べる。

すると、右表から、 $a(3)=2$,
 $a(4)=5, a(5)=13, a(6)=34$ となる。

	初期	$J = 3$	$J = 4$	$J = 5$	$J = 6$
A	1	2	5	13	34
B	1	2	5	13	34
S	1	3	8	21	55

また、 $a(6)$ が表示される直前の S の値は 21 である。

- (2)
- $a_1 = a_2 = 1, c = 1$
- のとき、
- $s_1 = a_1 = 1$
- より、
- $a_3 = a_2 + \left[\frac{s_1}{c} \right] = 1 + 1 = 2$

$$s_2 = s_1 + a_2 = 2, \quad a_4 = a_3 + \left[\frac{s_2}{c} \right] = 2 + 2 = 4$$

$$s_3 = s_2 + a_3 = 4, \quad a_5 = a_4 + \left[\frac{s_3}{c} \right] = 4 + 4 = 8$$

$$s_4 = s_3 + a_4 = 8, \quad a_6 = a_5 + \left[\frac{s_4}{c} \right] = 8 + 8 = 16$$

- (3) まず、具体的に
- $a_3 = a_2 + \left[\frac{s_1}{c} \right]$
- が 140 行
- $A=B + \text{INT}(S/C)$
- に対応したときを考える。

すると、 $A = a_3, B = a_2, S = s_1$ である。

次のステップ $s_2 = s_1 + a_2$ は $S=S+B$ が対応し、これが 160 行になる。

さらに、 $a_4 = a_3 + \left[\frac{s_2}{c} \right]$ を 140 行で実行するには、 $B = a_3$ となる必要があるの

で、170 行は $B=A$ である。

- (4)
- $A = 1, B = 1, C = 2, N = 6$
- の

とき、(1)と同様にして、値の変化を調べる。

すると、 $a(6)$ が表示される直前の B の値は 3 となる。

	初期	$J = 3$	$J = 4$	$J = 5$	$J = 6$
A	1	1	2	3	5
B	1	1	2	3	5
S	1	2	3	5	8

[解 説]

数学 A のコンピュータ問題と同じく、プログラムのバグ修正が題材となっています。しかし、本問を選択すれば、時間内の完答は至難のわざでしょう。